

NAJU
*Web
Contents*

2022년 06월 29일 12시 47분

목차

목차	2
西部キル	3
西部コース	3
錦城館	3
正綏	3
牧史 衙「琴鶴軒」	3
S D A(セブンスデー・アドベンチスト) - イエス再臨	3
崔溥(チェ・ブ)と梁(ヤン)氏家屋跡	3
ポリマダン(場)通り	4
西城壁通り	4
西城門	4
羅州校	4
司馬通り	4
老堂と松	4
明堂通り	5
社倉通り	5
駟馬橋(碑)と跡	5
の細道	5
南坡古宅	5

西部コース



▶ 錦城館

月1日と15日に村の官吏と士人を集めて、錦城館の中央に王を象する殿牌(チョンペ)・闕牌(クオルペ)とよばれる木牌を祀り、時の首都漢陽にあった王宮の方角に向かってをくす儀式“望闕”が行われた。望闕は、元、主に統祭日や王・王妃の誕生日に行われたが、羅州では月2回ずつ定期的に行われたという点から、錦城館は地方宮廷としての意義がとても大きかったと言える。錦城館は、地方では稀にみる大規模の立派な建物である。また、抗日精神という威さも兼ね備えている。



▶ 正綏

“正綏”とは、その名の通り、官に出入りする人に正しい心構えを持たせ、心を安らかに保つよう呼びかける、という意味を持つ。正綏は、1603年(宣祖36年)に羅州牧使に赴任した兎伏(ウ・ボクリョン)が建立したと「邑誌」に記されている。正綏には、ソウルの「申聞鼓(民衆の直訴用の鼓)」と同じような鼓があり、羅州の人はこの鼓を使って牧使に直訴した。



▶ 牧史 衙「琴鶴軒」

“衙”とは、朝鮮時代の地方官衙(役所)の敷地にあった住居用の建物である。牧史といわれる役人が政務を行った所を「東軒(外東軒)」、衙を「東軒」とも呼んだ。琴鶴軒は、羅州牧使が居住した邸宅、羅州牧使の東軒である。また、羅州官衙にある建物の中で、実際に市民が利用できる施設でもある。KBSバラエティ番組「1泊2日」の撮影が行われたことで有名になり、現在は官衙宿泊ができる。



▶ SDA(セブンスデー・アドベンチスト) - イエス再臨

イエス再臨は、羅州最古の教会である。1914年、嶺南地方で宣活動をしていたイ・グンオク、キム・ソギョンの2人の道師が、湖南派遣後、最初に福音した所がここ羅州である。日本統治時代に羅州に建てられた最初の教会で、左隣にある建物は1961年に建てられたものである。それぞれ異なる建築式で建てられており、2ヶ月を共にした2つの教会が羅州の市民に福音を播している。



▶ 崔溥(チェ・ブ)と梁(ヤン)氏家屋跡

現在、梨花アパートがある場所は、昔、朝鮮時代の羅州を代表する人物で、「漂海」の著者として有名な錦南崔溥(チェ・ブ)が暮らしていた所である。その後、この地にはヤン・ドンホという富豪が暮らし、第2次世界大戦終戦後、家を建てている時に火事にな

(<http://www.naju.go.kr>)



梨花アパートの西側に、この時代の華をはかり知ることができる。

▶ ボリマダン(場)通り

コースの中間にパッと開けた通りがあり、この通りで打ちや干しが行われたことから、「ボリマダン(場)通り」と呼ばれている。詩人孫光殷(ソン・クァンウン)の「打ち」という詩を思い浮かべると、より鮮明に風景をイメージすることができる。

▶ 西城壁通り

羅州邑城は、大部分の邑城と同じように背山臨水の地に位置している。前方に“ 山江”、後方に羅州牧の山である“錦城山”が聳えている。城壁は、北壁及び南東壁の一部間だけ丘陵が利用され、その殆どが平地を切るように積まれた平城である。

▶ 西城門

山の麓から錦城山を眺めるように建っている門が“西城門”で、本名前は「映錦門」である。城は、外敵から自分たちを守るのが主な目的だが防備が弱い城門では特に熾烈な戦いが繰りげられ、この西城門でもまた、熾烈で悲しい官軍と東軍の戦いが行われた。

▶ 羅州 校

羅州 校は、錦城山の元峰の麓にある。1986年8月、高麗の成宗王が12の牧に 校を設置するよう命じ、羅州 校もこの時に建立されたものと思われる。 校の入り口には、“羅州 校”と記された石碑と、“大小人員皆河馬”と記された石碑が べられている。

▶ 司馬 通り

司馬 通りは、小科の最初の試験である“司馬試”に合格した生員や進士たちが一同に試験を受ける。後進の育成に努めた所で、 校と書院の中間的な位置にあたる。司馬 通りでは、長期休暇に入った大生を象に、漢文古典講義プログラムが運送されることもあり、小科、通鑑、四書、三才の順に系統的に古典講義が行われる。

▶ 老堂と松

元 此の地は、六房吏の長である 長の事務室だった所で、舟師、 長とも呼ばれた。現在は、羅州 老堂が買い取り、“老堂”という高者用の集会所が設けられている。老堂で、番目を引き継ぐのは、やはり松の木である。老堂の松が目を引く。老堂の松は、番目を引き継ぐのは、やはり松の木である。老堂の松が目を引く。
(<http://www.naju.go.kr>)



いる。老室で一番目を引くものは、やはり松の木である。まるで龍が昇天するかのような形をしていることから、“龍松”とも呼ばれている。この松は海松で、邑城では滅多に見ることができない木である。



▶ 明堂通り

明堂通りは、羅州邑城 において風水が良いとされる場所で、この地には昔から村が形成され、史といわれる役人たちが暮らしていた。以前は、錦城山神を祭る“ 祖堂”という祠堂があり、1970年代後半に無くなったと 知られているが、羅州丁氏一族は最後まで錦城山神の祭祀を執り行ったそうである。



▶ 社倉通り

“社倉”とは、官 穀物を貯 した倉庫である。錦城館の裏道が、昔、穀物倉庫があった社倉通りである。現在、社倉は っていないが、社倉通りの目印でもあるケヤキの木は樹 約400年を誇り、しっかりとこの地を見守り けている。地域の住民たちは、このケヤキのことを“堂山の木(タンサンナム)”とも呼ぶために、この通りは、「堂山通り」とも言われる。



▶ 駟馬橋(碑)と 跡

“ ”とは、朝鮮時代の地方の守令を補佐する地方自治機 を指す。守令が司る行政を、土豪の立場で諮問、支援する諮問機 で、地域の風俗を 化し、現在の地方公務員にあたる 史たちの不正を取り締まる是正機 としての役割も っていた。文 の役以後、その機能は縮小し、 と呼ばれるようになった。



▶ の細道

の細道は、錦城館の東の に沿って く細い路地を指す。道が くてすれ違いざまに肩がぶつかるので、“ が芽生えやすい路地”ということから由 する名前である。最近 は、付き合いたてのカップルが多く訪れるスポットである。



▶ 南坡古宅

南坡古宅は、密陽朴氏の邸宅で、重要民俗文化財第263 に指定されている。南坡古宅は、20世紀初めから中盤にかけて建てられたために、近代式韓屋の建築 式の 化がそのまま見られるという点で文化的 値が高く、また、全羅道の上流階級の典型的な邸宅ともいえる。

NAJU

Web Contents

